

## 研究紀要 87 インターネットを利用した交流実践

福井 幸久（南島町立南島中学校）	西村 明（紀勢町立錦中学校）
瀬田 英明（県立津西高等学校）	岩佐真由美（県立松阪工業高等学校）
谷 真人（県立伊勢実業高等学校）	東 敬義（津市立橋北中学校）
勢力 稔（三重県総合教育センター）	小竹 篤（三重県総合教育センター）
中村 武弘（三重県総合教育センター）	上谷 典秀（三重県総合教育センター）

### 1 研究の趣旨

学校教育におけるインターネットの活用は、今までにない教育効果を生み出す可能性があり、期待が大きい。例えば、いながらにして必要な情報を検索したり、電子メール等をはじめとした遠隔地とのリアルタイムによるコミュニケーションが可能である。このコミュニケーションを手段として活用することで、各学校で行われる調査や情報収集の交流による学習を支援することが可能である。このような方法を利用して、各地域内外の学校と身近なテーマの調査結果や地域情報を交換・比較することで互いの自然環境、文化歴史の理解へ発展していけるよう交流活動を行うことを目的とした。

### 2 研究の内容と方法

各学校のシステム環境を考慮し、教科指導や特別活動等、可能な実施形態に合わせて自主課題を設定し、電子メールや Web 等を活用して次に示す地域内外の学校間の交流活動を行った。

【事例 1】中学校における地域情報の活用実践「私たちの錦をつたえよう」

（美術、特別活動で三重県内外の小中学校と交流）

【事例 2】中学校における環境教育での実践「校庭に設置した人工池に生息するトンボを指標とした地域環境調査」（三重県下の小中学校 4 校と課外活動で交流）

【事例 3】高校における環境教育での実践「自然科学コースにおける実践」

（HR 活動で海外の高等学校と交流）

【事例 4】高校における選択化学での実践「水環境とその保全...川の水質検査での交流学习」

（理科の学習活動で他県の高校と交流）

【事例 5】高校における選択国語科での実践「俳句を用いた交流学习」

（国語の学習活動でイントラネットを活用して交流）

### 3 研究のまとめ

インターネットを使った交流学习により、地域を取材したり、取材をもとに Web ページを作成することで、自分たちの住む町への理解を深めることができ、ゴミ等の身近な環境問題に目を向けることができた。また、調べたことをさらに深めるために、他地域と交流することで、環境の異なる地点でも調査をしているという実感をもったり、交流相手と「実際にあってみたい」という感情をもったり、自然豊かな地域への憧れや興味・関心をもった。こうして交流学习を深めていくと子供たちは自分たちの情報を知らせるために、電子メールだけでなく、周囲の環境や生徒の様子をデジタルカメラで撮影し添付したりと自主的に活動を広げていくことができた。このような子供たちの自主活動をさらに継続・発展させるには、T.T の導入も含めた指導法の工夫、教材への興味関心等、教師がいかに支援していくことが今後の課題である。

人と人との社会におけるコミュニケーションは、大事なことであればあるほど様々な配慮が必要である。インターネットを交流に利用することは非常に効果的な手段になるが、決して統べてではないということも考慮すべきである。